

# 学校だより たぐち

佐久市立田口小学校 平成28年 6月 3号

## 音楽会近づく・・・。

各教室から、また音楽室から、7日からは体育館から音楽会に向けた練習の歌声や楽器の演奏が元気よく時には消え入りそうな感じで校長室に届いてきました。と同時に私には、歌っている子どもたちの表情や体の動きが見えるように思いました。



もちろん音楽会ですから、それなりの音楽を奏でたいと願い、日々の練習に取り組みます。音を合わせるためには、気持ちを心をついに合わせる事が不可欠であることは言うまでもないことです。それがこの時期に音楽会を行う意味の一つだと思ってきました。(秋に音楽会を行う学校もたくさんあるのですが)

いくら練習を積み重ねてもうまく出来ない事はあります。いくら練習をしても上手に演奏が出来ない場合もありますし、



その時だけたまたま間違えてしまうということだってあります。

ですから、大事なことは本番でうまく出来たかという事ではなく、練習の段階でどれだけ本気に練習に取り組み、クラスの仲間たちと心をついに演奏できたかだと思います。そうでなくては楽しくなりません。

心を合わせるためには、互いに子どもたち同士もまた、指揮を務める担任と子どもたちがお互いに尊重し合う気持ち、姿勢が不可欠です。

子どもたちの姿を認め励ますのであれば、「今現在」です。どうか、子どもたちに音楽会の練習の様子について話をする機会をつくっていただき、その中で認め励ます言葉がけをお願いします。

少しぐらい出来ていなくても、平気、平気・・・でも、出来るようになるための努力を惜しんではなりません。

## 「聴く」と言うこと



「聴」という字には、「耳」があります。もちろん、聴くのは耳で聞きますから、当然といえば当然です。ですから、耳で相手の話を最後までしっかり聞くこと。さらに、「聴」という字には「目」という字が含まれています。それは、目で相手の表情や仕草をしっかり見て聞くこと。「心」という字もあります。相手がどのような思いで話しているか。感じながら聞くこと。そして「+」が書かれている。だから、その三つの聞き方を合わせた聞き方ができる子どもを育てることを示しています。それは、「傾聴」ということ

です。そういう子どもたちを育てたいと思います。

もうおわかり頂けると思います。人の言うとおりに従っているだけでは、こうした姿を身につける学習はでき

ません。教えてもらうことも、自分から誰彼かまわずに、聞いていくという姿勢がなければならないと考えます。そうでなければ、誰かの指示がなければ動けず、誰かの指示に従って動いてしまい、その行為がどのような思いを相手にさせてしまうのかということ。「思いやる」「考える」ことが出来ない自分になってしまうということを示しているように思います。それは、まさに「聴」という文字が示す意味とは正反対の姿ではないでしょうか。学ぶためには、まず他者の話を「聴く」ことから始まります。

## そこに至る一番の近道は

人は誰でも、簡単により楽に、最も効果的な手段を探し、課題の解決や少ない努力で最大の効果を上げようとします。当然のことです。でも、しかし、人にとってまた生きていくために重要で不可欠な事は、どれも厄介で面倒な事がほとんどではないでしょうか。逆な言い方をすれば、「人にとって大事なことこそ、面倒で厄介な事だらけだ」ということです。

「そこに至る一番の近道は、一見したら最も遠回りに見える道だ」と述べられたのは、前県教育長であった齋藤金司先生でした。大事なものは、厄介で面倒であるということは、とどのつまりそうそう簡単には思ったような様子にはならないし、結果も手に入らないということを意味しているように思います。「遠回り」の言葉が示すことは、そのことを嫌がらず地道に取り組む事が、唯一の効果的で解決に向けた筋道であることを述べたものではないかと思いました。

楽をしたいですし、楽な方が誰でもいいはずですが、でもそこから、少しでも離れ、こつこつとした生き方が出来るかを「近道」は、述べているように思いました。



## 同級会

先日、同級会がありました。私の中学校の時の同級会です。中学の時、私自身はそれほど集団に溶け込み、その組が気に入っていた訳ではありませんでした。(そう思っていました) また、どちらかと言えば、集団にいる自分に自信もなかったですし、若干の違和感も覚えていました。でも、この歳になると、なんとはなしに懐かしさがあります。

先日の同級会では、本当に何年ぶりかという方にお目にかかることができました。懐かしさも手伝い、その方と長い間話をしている自分がいました。話の内容は、たわいもない近況から始まり、その年齢の方が多く抱える問題にわたって話が途切れない程の濃い時間を過ごしました。不思議なものです。会った途端に「その時」に戻ります。そして、気軽に、話が出来ると関係になります。そうした間柄の相手がいると言うことは、幸せな事だと改めて思いました。

音楽会で手に入れるもの：別に音楽会において手に入れるものだけでなく、学校に来ていることで手に入れられるものがあると思います。「同級会」に参加した際のなんとも言えない気のおけない空気感とでも言いましょうか。そういったものは、いったいどのように醸し出されていったものなのだろうと思います。

中学の時に覚えていることは、2年生の時に行ったキャンプでしょうか。私たちの班は、すき焼きの鍋を抱え、大きなスイカを抱えてという班でした。今思えば、よく先生方が認め、許してくれたなと思いました。およそキャンプには相応しくないすき焼きのいい香り周囲に広がり、私の脳裏に鼻の奥に「中学の時」として残っています。気の置けない空気感は、こうした体験や経験から創造されたものではないかと考えます。同様な事が音楽会にも言えるのだと思います。失敗しないとかうまく出来たということも脳裏に残るのでしょうが、それよりも別のこと例えば、助け合ったこと、徹底して努力したこと、教えてもらったこと、出来るようになったこと出来なかったことなどなどそうしたことをひっくるめて認めてもらったことが、すぐにあの頃に戻れる関係を創造したのではないかと思います。かけがえのない時間です。